

草原の学校からのメッセージ

1988年、アメリカの農村にある コミュニティカレッジ（訳：地域住民対象の大学）に行ったとき、私には夢ができました。この学校では10代から90代まで、様々な年代の人たちが 授業を受け、お互いに影響し合っ、学問のみならず、たくさんのことを学び合っている。

そんな学校を、大好きな阿蘇に作りたいたい!! そういう夢です。

そして、今、小さな“草原の学校”を阿蘇、産山村で開くことができました。学校と言っても、何か建物があって、決まった先生、生徒がいるわけではないのですが、子供も大人も、いっしょに農業の体験をしたり、何かをついたり、動物たちと遊んだりする——自然に囲まれた農村の中で、いろんなことを学んでいく、そういう“学校”です。

それも、産山村の井信えさんたちの甚大な協力により、かなっていているようなものです。村の方々の理解と協力、受け入れがなかったら実現しなかったことでしょう。本当に感謝の気持ちです。

村と町の人たちが喜びを分かち合い、お互いを支え合っていること、とても素晴らしいことだと思います。

村では、子供たちが青い空、広い草原の中で、のびのびと、いろんな体験をしてきました。夕かき頃の自然、土との触れ合いは、大切な根っこの部分を育み、さらに大人になってからも、あたたかい思い出として心の中に残ることでしょう。

子供は、五感で感じる全てのものをスポンジのように吸収していきます。

木が風にゆれてサワサワ音がすると、木がお話してる、という。おもしろいものを見付けると、夕又キとキツネのいたずらだと喜ぶ。そんな子供たちの感性を、ゆくりと見守っていきたい、と思っています。

0才～70才ぐらいまでの、町や村の子供たちやおじいちゃんたちと、ワイワイやっていて、ふと気がつきました。これまもう あのと時の夢… コミュニティカレッジそのものだ、ということに。そして、これは昔は当然のように存在した、大家族の家庭そのものなんだ…と。私の家族がそうでした。いろんな大人が出入りしていて、みんな、お父さんお母さんみたいでもあり、友達でもあり、人と交流することの楽しさをイ体で感じていたような気がします。